

# 平成30年度事業報告書

一般社団法人 日本左官会議

## [1] 概況

平成29年度には事業構成の組み替えを行い、変更認定申請を行った。それにより、現状を踏まえた姿にはなったが、それでもなお「公益社団法人」という枠組みは、日本左官会議の実情や目的との隔たりは埋まらなかった。そこで理事会で話し合った結果、一般社団法人に戻るという決断に至った。その旨を内閣府に届け、平成31年度からは一般社団法人として活動していくことになった。

事業は引き続き、シンポジウム、映画上映会といった一般参加のイベント、土と左官の研究会などを開催、左官に興味をもつ一般の人および専門家のネットワークを広げている。

## [2] 事業期間

平成30年 3月 1日～平成31年 2月28日

## [3] 事業の内容

1) 左官を広く知ってもらうための広報・啓蒙

### 【連続シンポジウム】

11月3日（土・祝）、連続シンポジウム「職人がいる町、塗り壁のある暮らしーその終焉がもたらすもの」を九州大学伊都キャンパス稲盛ホールで開催した。左官で当会議理事の挾土秀平、原田進、川口正樹、顧問の荒木富士男、地元の左官職人である道下幸二、荒木新二、建築家の高木正三郎が登壇、やはり左官で当会議理事の小林隆男が司会をつとめた。まず、挾土が「俺たち左官の70年」と題し、隆盛した高度経済成長期の左官の様子を実体験をもとに伝えた後、道下と荒木が地域の左官の仕事を紹介。荒木、原田、川口、高木がクロストークを行って現状を報告、最後にまた挾土が問題提起と左官の魅力を伝えてしめくくった。会場では左官材

料などの展示や、塗り壁の実演なども行われた。約100名の観客を集め、「左官を盛り立てていこう」という熱気に溢れた。

#### 【講演会「タウトの見た桂離宮、左官職人の見た桂離宮」】

5月27日（日）、京都大学国際交流ホール2で、元ドイツのアーヘン工科大学教授のマンフレッド・シュパイデル、当会議顧問で左官の久住章を招いて、講演会「タウトの見た桂離宮、左官職人の見た桂離宮」を開催した。ブルーノ・タウトは桂離宮を「発見」した建築家として知られている。シュパイデルはタウトの研究者であり、なおかつ日本の左官に造詣が深く、久住たちを講師として長年、大学に招いてきた。さらに久住は桂離宮の修復にも携わっている。司会は柳沢究。100名の定員で、事前に締め切るほどの申込みがあり、専門家や当事者ならではの話はたいへん好評を得た。

#### 【「石巻の土蔵から見える世界～齋藤氏庭園土蔵修復の軌跡」上映会&トーク】

日本建築学会大会の開催に合わせ、9月4日（火）、せんだいメディアテークスタジオシアターで、「石巻の土蔵から見える世界～齋藤氏庭園土蔵修復の軌跡」上映会&トークを開催した。当日はあいにくの台風となってしまったが、約80名の観客を集めた。

まず、泉田英雄が「東日本大震災と気仙沼の土蔵修復」をテーマに講演、災害などで古い建物が消失することで、地域の文化が失われてしまうことを訴えた。次に、齋藤氏庭園土蔵修復を追った映画を上演。その後、映画を監督したト部弥生と、土蔵修復を担当する左官、小林隆男が映像を交えつつ、修復の過程で見えてきたことや感じたことを話し合い、和やかななかにも熱気あふれる会となった。

#### 【ミニかまどづくりワークショップ】

10月27日（土）、東京目黒区の伊佐ホームズ駒沢住宅で、「ミニかまどづくりワークショップ」を開催した。当会議理事で左官の小沼充が考案、制作したミニかまどを、伝統的な左官の技法を応用した手法で仕上げるというもの。当日は親子を含む10組が参加。泥団子づくりも間にはさみつつ、みなさんに和気藹々と楽しんでいただいた。

#### 【黒漆喰磨きの集い vol.6】

秋田県横手市増田町の中心部、商家が立ち並ぶ伝統的建造物群保存地区。家の奥にある内蔵に用いられている黒漆喰磨きを継承していくための活動「黒漆喰磨きの集い」の6回目が10月7日

(日)に開かれ、当会議が協力した。今回は講習会と見学会の二本立てとなり、理事で左官の小林隆男が講師をつとめた。

## 2) 左官職人や研究者を対象とした研修および研究発表会の実施

### 【土と左官と建築の研究会 第2回・第3回】

前年度に発足した「土と左官と建築の研究会（通称ドサケン）」、今年度は2度開いた。

第2回は3月9日、愛知産業大学で開催。座長は、理事で愛知産業大学准教授／建築家の宇野勇治。左官の松木憲司、松木一真、エミリー・レイノルズ、研究者の畑中久美子（岐阜市立女子短期大学）、宇野みき、建築家の柳沢究（京都大学）、久保久志（東畑建築事務所）、浅井裕雄（裕建築計画）、事務局の多田君枝が出席した。まずは愛知産業大学構内で、宇野が学生と共につくった木舞のままの茶室、敷地内の土で塗った壁、日干し煉瓦の壁などを見学、さらにパイプを使ってミニ版築を各々で製作した。

その後、自己紹介を経てディスカッションに。「職人が施主と直接つながったり、分離発注をすすめられるとよい」「左官は『塗る』だけではなく、『立体』をつくる技術だということアピールできないか」「日本建築学会に『生土学会』をつくれないうか」「フランスのクラテールのノウハウを受けたキットがつくれないうか」といった多様な意見が出た。

第3回は5月12日、理事の松木憲司さんの自宅と工房で開かれた。左官は、松木憲司、松木一真、杉本幸樹、世良和也、本多俊祐。研究者は、畑中久美子、山田宮土理、中村航。建築家は、宇野勇治、浅井裕雄、久保久志、米田雅樹。そして2017年に「左官フォーラムみえ」を企画した平野昌、事務局の多田君枝、ZOOMで、左官のエミリー・レイノルズ、ビルダーの鈴木晋作が参加した。今回は、土と稚内珪藻頁岩を混ぜた消臭泥団子づくりからスタートして、その後、ディスカッションに入った。

「各地の日本左官会議会員が案内する街歩きを行う。所有者に蔵などのよさを伝えることにもなる」「病院、健康産業で土壁を使ってもらえるように働きかける」「研究者のデータベースをつくりたい」「土とセメントの間のような舗装とか研究できないか」「行政と防災協定を結び、建築士会とも連携して、被災地の被害調査に建築士と一緒にいく。認知度も上がる」などの意見が出た。

なお、第1回目「ドサケン」を契機として、富山権魚津市に4月に開校する「星の杜小学校」のメディアルームの壁が土で彩られることになり、11月に小学生たちを集めたワークショップが開かれた。住吉小学校、上中島小学校、松倉小学校が統合されて同校が開校するため、3校は閉校するのだが、それぞれの小学校の校庭から採ってきた土が生かされた。

#### [4] 会員の状況

名誉会員 2名 顧問会員 8名 正会員 名 準会員 名 支援会員 名  
賛助会員 社 計 名・団体（平成31年2月28日現在）

#### [5] 役員などに関する事項

議長 挾土秀平 職人社秀平組  
副議長 小林隆男 江州左官土舟  
副議長 原田進 原田左研  
総務理事 宇野勇治 宇野総合計画事務所  
事務局長 多田君枝 アイシオール  
理事 長田幸司 長田左官工業  
理事 川口正樹 川口左官  
理事 小沼充 小沼工業  
理事 今野等 今野左官店  
理事 豊永郁代 アイシオール  
理事 西川和也 工房カズ  
理事 松木憲司 蒼築舎  
監事 吉村浩志  
すべて非常勤

#### [6] 理事会の開催状況

当該事業期間中、下記の通り、理事会を開催した。

5月7日、主たる事務所において、理事会を理事11名と監事の出席により開催。平成29年度事業報告書、第5期決算報告書を承認。5月27日の総会の開催を決議。議長、副議長、総務理事、事務局長は、自らが所管している職務の執行状況について、順次報告を行った。

5月27日、京都大学吉田キャンパスW404演習室において、理事会を理事8名と監事の出席により開催。代表理事、副議長、総務理事、事務局長を選任、長田幸司を理事に新任し、「道下組」の賛助会員として入会することを承認、可決した。

同日、社員総会を社員21名の出席により開催。平成29年度貸借対照表、正味財産増減計画書、及び財産目録を承認した。また、任期満了となる役員（理事12名、幹事1名）について改めて選任することを承認、可決した。

10月10日、主たる事務所において、理事会を理事9名と監事の出席により開催。荒木富士男の顧問会員の入会を承認した。また、事務局長が「経理規定」「秘密情報保持規定」および「印章管理規定」の説明を行い、原案通り承認可決した。議長、副議長、総務理事、事務局長は、自らが所管している職務の執行状況について、順次報告を行った。

e

#### [7] 附属明細書について

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書を作成しない。

以上